

かわさき区の宝物シート

宝物No.
8-7

こうしんとうと でわさんざんじゅんぱいひ 庚申塔と出羽三山巡拝碑



エリア	中央地区	シーズン	通年
	渡田・京町	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input checked="" type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



所在地	川崎区小田1丁目18番地
問い合わせ	川崎区役所地域振興課
TEL	044-201-3136
FAX	044-201-3209
E-mail	61tisin@city.kawasaki.jp
URL	
交通	川崎駅よりバス 京町循環線「京町」下車 徒歩1分



基礎情報

■小田1丁目のかつて昔沢道と呼ばれた道沿いに佇む庚申塔と出羽三山の巡拝塔。庚申塔は元禄5年(1692)、巡拝碑は享和元年(1801)の造立とされる。庚申塔は、合掌する六手の「青面金剛(しょうめんこんごう)像」と台座部には右から「みざる・きかざる・いわざる」のポーズをとる三猿が彫られている。元禄～享保期の頃が庚申塔造立の全盛期となり、庚申塔の本尊としての青面金剛や弓・剣・矛、三猿等の標準型が定着したとされ、川崎区内では最も古い青面金剛像である。

■現在は覆舎があり、鍵がかけられ一般公開はされていない。すぐそばに住む土屋家において代々守られている。

由来・エピソード

■悪霊を追い払うために道端に石碑を立て青面金剛を祀ったものが一般的な庚申塔とされる。庚申(かのえさる)の日に悪霊が出るという「庚申信仰」によるもので、庚申信仰とは道教の「三尸(さんし)説」にもとづき、庚申の日の夜になると眠っている間に体内にいる三尸(上尸・中尸・下尸)という虫が天に上り、天帝にその人の罪を報告する。その罪の重さによってその人の寿命が縮められるという信仰。よって60日に一度巡ってくる庚申の日の夜は皆で集まって「庚申講」を催し、眠らずに勤行する「庚申待ち」を行って三尸の虫が天に上れないようにした。そして年に6回3年連続で庚申待ちを達成すると、供養のための庚申塔を造立したという。なお三猿には三尸になぞらえ目耳口をふさぎ悪事を報告させないようにする意がこめられているといわれている。

■「出羽三山」とは山形県鶴岡市に位置する月山、湯殿山、羽黒山を指し、地形的には1つの山の3つの別峰を三山としている。それぞれの祭神を祀る羽黒山神社、月山神社、湯殿山神社があるが、羽黒山に三山合祭殿が文政3年(1818)に建立された。元々は東北の縄文期以来の伝統を引き継ぐ自然崇拝が源流であり、平安時代から修験道の道場として発達する。五穀豊穡・無病息災などに特に利益があるとされ、東北各地から関東・北陸まで信仰を広げ、江戸時代には多くの参詣者で賑わった。川崎においても各地で講が組織され、毎年の行事として講ごとに遠路、参詣が行われていた。道中の無事の祈願あるいは参詣の記念として巡拝碑や供養塔が造立された。御尊像を奉造するものや文字を刻むもの、御詠歌をしるすものなど様々な様式があるという。

■昭和40年(1965)頃のこと、近所のトラックが衝突して小屋が破損した。そのまま放置していたところ運転していた人が怪我が負ってしまい、慌てて土屋邦雄さんら地元の有志で新しい覆舎を立て直したという。

補足・その他

■川崎市市内には総数320基の庚申塔が現存し、寛文元年(1661)造立の無量院(幸区小倉)のものが最古とされている。川崎区内では23基が確認され、最古は真福寺(寛文5年)のもの。小田の庚申塔は5番目に古いものである(『昭和60年度博物館資料調査・川崎の庚申塔』川崎市博物館資料調査団,1986)。

関連シート

(8-4) 成就院